

ブラジル  
で開催

## 「第3回子どもと青少年の性的搾取に反対する世界会議」



子どもと青少年に対する性的搾取は、子どもの権利を侵害する虐待行為です。この恐ろしい行為から子どもや青少年を守るために、世界各国は協力して解決に取り組まなければなりません。1996年のストックホルム、2001年の横浜につづき、2008年の今年、「第3回子どもと青少年の性的搾取に反対する世界会議」がブラジルのリオデジャネイロで開かれました。ブラジル政府、ユニセフ、ECPAT（子ども買春根絶に取り組む国際NGO）などが主催し、11月25日～28日まで行われたこの会議には、各国政府、国際機関、NGO、民間企業、子どもや若者を含め約3,000人が参加し、子どもの性的搾取のさまざまな問題について活発な議論を交わしました。

### インターネットによる新たな脅威

最近、国連が発表した「子どもに対する暴力（Violence against Children）調査報告書」を含め、過去10年間の多くの研究によると、子どもと青少年の性的搾



©日本ユニセフ協会  
会議のようす

取の問題は深刻になっています。子どもの性的搾取には、家族から受ける虐待、早婚、家事労働をしている子どもに対する搾取、人身売買、買春などの商業的性的搾取など、さまざまな形態があります。特に、近年はインターネットや携帯電話の普及により、子どものポルノ写真が取引され、世界規模で子どもの権利を侵害する行為が拡大しています。

### リオ協定

開会式でブラジルのルーラ・ダ・シルヴァ大統領は次のように語りました。「子どもの商業的搾取の背景には貧困問題があるとされます。」



©日本ユニセフ協会  
リオ協定の合意を喜ぶ子どもたち

しかし、性的搾取の加害者は、国の南北を問わず、中産階級かそれ以上のお金を持っている人たちです。この問題は貧困問題ではなく、裕福な人たちの問題なのです。」

会議の最終日には、子ども買春や子どもポルノなどの根絶に向けて数々の提言をまとめた「リオ協定」が採択されました。協定では、各国に対し、子どもの人権に関する独立調査機関を設けること、子どもの性的搾取に対する禁止・処罰規定を法的に明確化すること、国際化する子どもポルノ問題に対処するため国際刑事警察機構（ICPO）と協力することなどを呼びかけました。

会議では世界規模の取り組みの必要性が確認され、そのために「官」と「民」の一層の連携が強調されました。子どもの性的搾取の問題を根絶するためには国際社会が各分野で地道な努力を続け、一人ひとりが声を上げ、行動を起こさなければなりません。

## ユニセフの取り組み

### 旅行・観光業界行動倫理規範 (Code of Conduct)



ブラジル会議で報告された成果の一つが（財）日本ユニセフ協会も積極的に参加している「子ども買春防止のための旅行・観光業界行動倫理規範（Code of Conduct）」。

ユニセフ、UNWTO（世界観光機関）、ECPAT等が世界的に推進しています。子ども買春や人身売買は、観光やビジネスで東南アジアなどの外国を訪れた旅行者によって起こされることが多く、観光・旅行業は買春者が旅行先へ向かうときの手段として直接的または間接的に利用されてしまいます。そのため観光・旅行業者が子ども買春撲滅に取り組むことは大きな意味をもちます。このコードプロジェクトに参加する観光・旅行業者は、企業の倫理規定を確立したり、従業員を教育する、などの行動倫理規範を履行することが求められます。2008年12月現在、参加団体・企業は、94です。

（くわしくは当協会ホームページ <http://www.unicef.or.jp/code-p/index.htm> をご覧下さい。）

### 子どもポルノ



子どもポルノは、子どもの性を商品として取引する虐待行為です。この問題の根絶を訴えるため、昨年3月に始まった「子どもポルノ問題に関する緊急要望書」への署名キャンペーン。子どもポルノの単純所持の違法化や子どもに対する性的虐待を描いたアニメや漫画の規制を政府にもとめるもので、これまでに11万人以上の署名が寄せられました。現行法改正に向けて国会での審議が継続されており、引き続き、皆様にご理解と署名へのご協力をお願いしています。